

## 手塚英孝



光市

(1906～1981)

手塚英孝は、現・光市小周防に代々続く医師の長男として生まれる。維新の英蘭学者手塚律蔵は曾祖父の弟。徳山中学在学中に十九世紀ロシア文学を愛読、特にトルストイの影響を受ける。後輩に宮本顕治がいた。慶応大学に入学後学生運動に入り、非合法下の日本共産党との関係をもつ。宮本顕治・百合子夫妻に全面協力し、また小林多喜二研究に打ち込むとともに、自分たちの運動の仲間や家族を蔭から支えた。寡作であったが、『落葉をまく庭』で第五回多喜二・百合子賞を受賞した。

(田村悌夫)

## 【主な著作】

『小林多喜二』(筑摩書房、昭和33年)

『落葉をまく庭』(東邦出版社、昭和48年)

『手塚英孝著作集』全3巻

(新日本出版社、昭和57年～58年)